

令和元年度 第1回 女川町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事録

- 1 日 時：令和2年3月26日（木） 18：00～19：30
- 2 場 所：女川町役場庁舎3階 小会議室
- 3 出席者：別添名簿のとおり

次 第

- 1 開 会
- 2 委任状交付
- 3 挨拶 須田町長
- 4 委員紹介
- 5 議 事 (1) 会長・副町長の選出
(2) 女川町まち・ひと・しごと創生総合戦略の実施状況について
(3) 地方創生推進交付金事業の評価について
(4) 女川町まち・ひと・しごと創生総合戦略【第1版】の期間延長について
(5) 女川町まち・ひと・しごと創生総合戦略【第2版】の策定について
(6) その他
- 6 閉 会

次第 3. 挨拶（須田町長）

委員の皆様、本日はお忙しい中ご出席いただき、ありがとうございます。本日から来年の3月31日までよろしくお願いいたします。本会議には震災直後から本町のまちづくりに関わっていただいた方、総合計画の策定に関わっていただいた方が多く、本当にありがたく思っております。

最初に策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を第1版とし、これを見直しつつ、次に繋げていく段階となっております。これから皆様には様々な場面でお集まりいただき、より充実した議論を行い、それをきちんと実現させていきたいと思っております。

現在、女川町の人口は今月頭の時点で6,393名となっております。約200名の方が外国籍の方で、うち150名はベトナム人でございます。今年度で見ると、4月から1月までの10か月は社会動態（転入、転出による増減）がマイナス1となっております。外国人の受け入れが多いので、その数値だけを見るべきではありませんが、人口の流出は落ち着きつつあるのかなと思っております。

地方における人口減の中で、地域社会をどのように維持していくか、またその中でどのように活力を生んでいくかというのが、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の根本的な趣旨であり、人の流れというのが重視されております。人口減社会はこれからもずっと続いていくものであり、本町のような地方地域であれば尚更その打撃を受けやすい状況です。そういう中においても地域をどのように維持、発展させるか、活力を生み出していくか、住んでいる人はもちろん、町外の方も、本町に関わっていただく方すべてを活動人口として捉えながら地域、そして我々が生きていく未来をより良いものにしていきたいと思いますという考えで邁進してまいりました。

人口の数値だけで図っていくつもりはございませんが、地方創生という観点からの町の状況も

見えてきたように思います。ここまで進めてこられたのも、ここにいる皆様をはじめとする町民皆様のご尽力、ご活躍があつてこそだと思っております。これから1年間、皆様をお願いをして様々な場面でご協力をいただくことになるかと思いますが、これまで培ってきたことを糧に、足りない部分は補いつつ、良い部分をさらに伸ばしながら進めていければと思います。
よろしく願いいたします。

事務局から報告

委員13名中11名の出席があり、女川町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議設置要綱第6条第2項の規定による委員の半数以上の出席を満たすため、会議は成立することを報告いたします。

次第 5. 議事(1) 会長・副会長の選出

事務局からの説明の後、下記のような議論があつた。

事務局：指名推挙で会長、副会長を決めたいと思います。ご異議等ございませんか。

全 員：異議なし

事務局：どなたからでも結構ですので、ご意見をお願いいたします。

委員 A：前年度の会長（阿部淳委員）・副会長（齋藤成子委員）に続投してほしい。

全 員：異議なし

会長挨拶：会長の指名ありがとうございます。

忙しい人が集まっているせっかくの機会なので、実りある会議にできればと思います。
よろしくお願いします。

次第 5. 議事(2) 女川町まち・ひと・しごと創生総合戦略の実施状況について

事務局からの説明の後、下記のような議論があつた。《資料1》

委員 B：基本目標3にある経済活力の維持に関する話だが、重点道の駅へ認定されたことは非常に大きいインパクトがあり、大いに期待したいと思っている。これをプラスに繋げていくには民間の努力が必要となる。例えば町独自のお土産等の整え方等、考えていかなければならない部分が多く出てくると思う。そのようなところは我々も協力し合つてより良い体制を整え、盛り上げていきたい。是非、皆様と力を入れて頑張っていきたいと思いますので、引き続き、よろしくお願いいたします。

会 長：民間の方では、様々なことを考え始めてるが、町としての考えを教えてほしい。

事務局：今、お話があつたように、女川駅前商業エリアの一部は次年度秋口には道の駅となる予定である。その中で、委員のおっしゃるとおり、道の駅として販売できるものと考えているところだが、本町では水産関係のものが多く、新たなものを開発していく必要があると

思っている。そのためには、民間の皆様と協力していくことが重要であると考えている。行政としてできる部分で最大の協力をしていきたいと思うが、民間の皆様が主となって取り組むべきことだと考えている。自治体だけの考えでは、ありきたりでつまらないものしか出てこないため、民間の皆様が楽しく、面白おかしくやっていたものが好まれると思うので、その辺を一緒に考えていければと思う。

開発にはお金もかかるため、仕組みづくりを行う必要がある。道の駅を運営していくにあたり、協議会を設置予定である。今後民間の皆様と腹を割って組織づくりに努めていければと思う。

次第 5. 議事（3）地方創生推進交付金事業の評価について

事務局から地方創生推進交付金制度について概要を説明し、交付金事業担当者からそれぞれ事業概要及び実績等を報告し、委員から意見等をいただいた。

①健康プロジェクトについて《資料2-1》

委員 C：すごくいい取り組みだが、今後はどのように続けていくのか。

事業担当者：この健康プロジェクトは10年間実施していきたいと考えている。今年度で4年目が終了する。地方創生としての事業は今年で一旦終了する。来年度以降は健康づくりの名目で事業を進めていくことになる。現在考えているものとしては、町の保健室的な相談場所を作りたいと思っている。

委員 D：高齢者の閉じこもり等、数値に見えない心の健康などについては何か取り組みを行う予定はあるか。

事業担当者：高齢者の健康づくりとしては、地区ごとに様々な取り組みを行っているのが現状である。団地内にて毎日、朝のラジオ体操などを行っている地区もあり、来ない高齢者がいる場合には声がけをするなど、コミュニティの形成はできていると思う。

また、健康福祉課では地区から依頼があれば、包括支援センターと連携して、健康講座、栄養教室等の出前講座等を行っている。高齢者についてはいろいろな取り組みを行えているが、働き世代についてはなかなか実施できていない状況なので、今回は働き世代をターゲットにした事業に取り組みさせていただきたいと思っている。

委員 D：小中一貫校での給食のようなきちんとした食事が家庭にも波及していけば良いと思う。地域ぐるみで取り組むのが大事であると思う。

会長：民間も協力できる場所があれば協力していきたい。

委員 E：栄養やカロリーなどを気にして外食をする際は、コンビニの商品がわかりやすい。

先週スーパーおんまえやが開店したこともあるので、おんまえやと協力して、食生活の改善事業をやってほしいと思う。（震災前に取り組む話になっていた。）

現役世代になると健康管理が難しかったりするので、運動系の対策についても企業と連携して取り組んでほしい。ゲームアプリを活用するのもよいと思う。

会 長：ノウハウや予算がわからず、取り組めていない企業もあるので、その辺をわかりやすく案内してもらえるとありがたい。

委 員 F：震災後バス通学になって子どもたちのメタボが増えた。小中一貫校になって、徒歩通学になるとのことだがどれくらいの子供が徒歩通学になるのか。

委 員 E：2キロ圏内は徒歩通学になる。浦宿方面は尾田峯より向こうのみバス通学のままで、五部浦、北浦は引き続きバス通学となる。

委 員 F：割合的にはどのくらいか。

須 田 町 長：小学生は3分の2程度、中学生は7割程度が徒歩通学となる。

委 員 F：徒歩通学が増えるのは健康面からみても良いことだと思う。

委 員 G：町内の食堂にある小さいポップは続けてほしい。それを見て、食生活の改善を意識することが多々あった。

また、働く世代こそ組織ぐるみで運動の決まり設けないとやらない傾向にある。そのような場づくりをサポートしてほしいと思う。

委 員 H：働き世代はコンビニ食が多いように思う。東松島市で行った事業で、市内の飲食店で設けられた基準に沿った健康メニュー（スマートミール）を出すような取り組みがあった。飲食店が多い町なので、女川町でもやってみてはどうか。

委 員 A：体重計と体脂肪率を計測できるものを町内の使いやすいところに設置してみてはどうか。

②DMOによる広域観光連携について《資料2-2》

委 員 F：宿泊の収容数はあまり変わっていないが、増やせば観光客も増えるのではないか。

須 田 町 長：入れ込みのピークに合わせて収容数を増やすと、閑散期の維持が大変である。

現在、学校校舎の再利用について、民間等に意見出してもらうことを予定しており、既に合宿ビジネスやグランピングなどの案が出てきている。ターゲットを絞りながら、一般客にも目を向けて考えていきたい。また、その取り組みに対し、町としてどれだけサポート

できるかも考えていきたい。

委 員 E：観光客数は震災前と同等に戻りつつあり、稼働率としては高いといえる。震災前は、業者の下宿や学生のスポーツ合宿などで通年来訪者がいたが、今はまだその資源がそろっていない。これから、清水公園やメモリアル公園等の観光資源が整備され、観光客数は増えると思われる。

会 長：宿泊場所については、空き家等も生かせると面白いのではないかと思う。

委 員 D：女川町では島へのクルージング等を行っているのか。

委 員 E：シーパル汽船の巡行船と潮プランニングの金華山航路がある。

委 員 F：出島については、これから架橋が完成することもあり、島内に遊歩道を作るため今後調査をしていく予定でいるが、町としては将来どう考えているか。

事 務 局：離島振興計画を策定する際に島民懇談会を行った。その際は島民から、新たな施設を建設するなど、大々的に観光客を呼び込みたいとは思わないが、来てくれた人に綺麗な景色を見てもらえるように整備したいと思っているとの意見があった。

もてなす場がないのは課題だと思っているが、休憩所や食堂等の運営については、高齢化や仕事の現状を考えると島民自身が行うことは難しい。民間でサポートしてくれるようなところがあれば、検討したいとのことだった。

委 員 I：豪華客船が来たときは女川までバスは出しているのか。

事業担当者：ツアーバスは来ていない。ただ、DMOの取り組みとして、シャトルバスを出している。

パシフィックであれば、女川まで来ていただいて、大六天を回ったり、高政に寄ったりしていただいている。

次第 5. 議事（4）女川町まち・ひと・しごと創生総合戦略【第1版】の期間延長について

事務局からの説明の後、下記のような議論があった。《資料3》

委 員 F：P9の将来推計人口の年度を直してもらえないか。

事 務 局：年度表示については、次の改正の時に直したいと思う。

会 長：期間の延長については承認ということで異議ないか。

全 員：異議なし

次第 5. 議事（5）女川町まち・ひと・しごと創生総合戦略【第2版】の策定について
議論等特になし

次第 5. 議事（6）その他

渡邊委員から、復興・創生インターンシップについて、別添資料のとおり情報提供があった。

委員 J：女川町では町内に住む子供たちに様々な支援をしていただいている。将来的に女川町を担う子供たちに対し、単なる学習だけではなく、実際に体験し、自分で探求していくような活動をどんどん取り入れていきたいと思っている。ほかの市町村では実現できない学習がこの町にはたくさんあって、この環境を生かして仕掛けをかけていきたいと考えているので、今後も様々な方にご協力をいただきたい。